

東武東上線の利便性向上等に関する要望書

東武東上線は県内屈指の大動脈路線の一つであり、東京都内への通勤・通学路線として、また日常の生活路線として、毎日多くの県民が利用しております。

安全性の向上を図るため、2020年度末までに、1日の利用者数が10万人以上の駅にホームドアが設置される運びとなり、また、川越特急の新設により、遠距離輸送の充実が図られました。

しかし一方で、相互乗り入れによる輸送障害の拡大等の負の影響、減便を余儀なくされた駅の利用者の存在、依然として厳しいラッシュ時の混雑など、改善すべき課題は多岐にわたります。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、県内会場への来訪者に対する円滑な輸送の確保及び駅施設の整備の充実が急務となっております。

そこで、当議員連盟では、日頃から東武東上線を利用している方々からの様々な御意見を踏まえ、次の事項について要望いたしますので、特段の御配慮をお願い申し上げます。

記

- 1 通勤ラッシュ等混雑時の利用者や視覚障害者等の転落、また人身事故を防止するために、ホームドア及び内方線付点状ブロックの設置駅を拡大すること
- 2 駅構内の混雑解消に向けた改善策の検討、及び運休時の混雑対策やバスによる振替運行の対応を充実させること
- 3 災害時における駅周辺帰宅困難者対策協議会が設置された時は積極的に参画すること

- 4 エスカレーター、エレベーターの設置を促進すること
- 5 エスカレーターの正しい利用についての周知徹底など、利用者のマナー向上のための取組を実施すること
- 6 駅周辺における遮断機閉鎖時間について工夫すること
- 7 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた、案内看板の多言語化や、外国人利用者の利便性の向上を図ること

令和2年2月19日

東武鉄道株式会社
取締役社長 根津 嘉澄 様

埼玉県議会東武東上線利便性向上促進議員連盟
会長 長峰 宏芳